

# 海況速報

平成7年度 第6号(通算 No.48)  
平成8年3月26日  
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

## 2月上旬～下旬の海況

### 【日本海海域】

積丹半島北方では鉛直混合が発達し、表面から200m層まで6°C台の暖水域（おそらく暖水渦）が形成されています。北緯41度30分線の本道沿岸側の海面から200m層までの水温は非常に低くなっています。津軽海峡以北への対馬暖流の供給が減っています。

北緯45度30分線の水温は、累年平均(\*1)に比べ礼文島北西域の200m層で約1°C高い他は、各層-1.7～+0.1°Cの範囲にあり、累年平均並からやや低めになっています。北緯44度30分線では、東経140度20分の200m層で累年平均に比べ1.3°C高い他は-1.0～+0.8°Cの範囲でほぼ累年平均並の水温となっています。北緯43度30分線では、東経140度より本道側では石狩湾沖の200m層で累年平均水温に比べ+2.6°Cとかなり高くなっているほかは各層累年平均並、これに対し東経140度以西では各層累年平均並から最大で1.4°C低い状態になっています。このように、北緯43度30分以北では本道沿岸側200m層で水温が高いことが特徴となっていますが、北緯41度30分線では、東経139度以西で累年平均並の水温を示しているものの、本道沿岸側では3～4°C低いところが多くなっています(-0.3～-5.4°Cの範囲)。

余市における沿岸水温(旬平均)は、1月上旬以降2月下旬まで、平年値に比べ-0.9～+0.2°Cの範囲にあり、平年並みの状態で推移しています。

### 【道東太平洋海域】

今期、道東太平洋海域の各層水温はすべて5°C以下になっています。全域で親潮の水塊に覆われています。各層とも水温が道東沿岸から沖合に向かって高くなっています。この時期この海域での典型的な基本構造を示しています。表面水温0°C以下の水は、ここでは、親潮の中でも特にオホーツク海の海水が溶けた水を含む沿岸親潮と呼ばれる水で、道東沿岸を南西方向に流れた後、襟裳岬付近から流れの一部が岸から離れて南方に向かって流れています。

水温は、200m層では累年平均に比べ-1.1～+1.3°Cの範囲で累年平均並のところが多くなっていますが、100m層以浅ではほとんどのところで累年平均より1°C前後低くなっています(-3.0～+0.5°Cの範囲)。

### 【道南太平洋海域】

恵山岬東方、北緯41度40分以北では各層ともすべて水温が5°C以下、特に50m層以浅では3°C以下になっているので、この海域はすでに親潮によって覆われています。したがって、

前回（12月）はまだ津軽暖流の水が浦河方面まで達する津軽暖流の渦モードのようでしたが、今回は津軽暖流が東北地方沿岸に沿って南下する、沿岸モードになっています。

水温について見ると、津軽海峡東口の最高水温帯の水温は、累年平均に比べ表面から200m層まで-0.1～+0.6°Cとなっていて、日本海から流れてくる津軽暖流は累年平均並となっています。しかし、その他の海域は各層累年平均に比べ-3～0°Cの範囲内にあるところが多く、水温は低めとなっています。これは、道東太平洋海域からこの海域に流入してくる親潮の水温が低いことが原因しているようです。

#### 【オホーツク海海域】

海水期のため観測がありません。

---

#### 資料　〔観測期間〕

稚内・網走水試（北洋丸）	平成8年2月13日～同2月14日（道北日本海海域）
釧路水試（北辰丸）	平成8年2月19日～同2月22日（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	平成8年2月20日～同2月21日（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	平成8年2月3日～同2月5日（道央日本海海域）

---

\*1：平成元（1989）年～平成7（1995）年までの平均値を使用しました。

（中央水試　海洋部）







